

中高生のための不登校支援

取組の背景・目的

当館には、乳幼児・小学生の時に児童館を利用して、中高生になっても児童館に顔を出す児童がいる。体を動かすなど、目的を持って来館する児童もいれば、職員とのたわいもない話を目的に来館する児童もいる。また、保護者から「不登校になってしまって、午前中児童館で過ごすことはできるのか。」という問い合わせも年間で数件入ることがある。不登校の児童の居場所として、児童館が機能するまでには、これから数年の実績の積み重ねが必要と考えているが、今年度新たな取り組みとして「ホッと！ぷれいす」という事業をスタートした。今までの勉強を主とした事業の内容を、勉強を教わるだけではなく、職員とのコミュニケーションを求め、自由に過ごす空間を提供するという方向性に変更した。

取組の概要

実施場所：児童館の1階。同じ時刻に2階の体育室・フロアでは、目的来館の児童がそれぞれ過ごしている。その空間に入れない児童でも過ごせるようにと、場所を分けて実施する。

実施頻度：毎週水曜日 18:30～19:30

職員体制：常勤職員2人配置。

実施方法：不登校支援対応の常勤職員（3名）のうち2名を配置。顔を覚えての安心感を得られるよう、固定している。

活動内容：参加者とカードゲーム。試験前の学習支援。友人間・学校での悩みなどを聞く。児童館事業への手伝いなど。

PR方法：年度初め近隣中学校へのチラシ配布・毎月のおたよりに掲載・同区教育センターへのチラシ配布など。

2025年度 フレンドリープラザ墨田児童会館中高生事業

ホッと！ぷれいす

皆さんは勉強や部活、忙しい毎日に「ちょっと疲れたなあ」と思ったり、「悩みを誰かに話したいなあ」と思ったりした時はありませんか？「ホッと！ぷれいす」は、そんなあなたが悩みを話したい時に話したり、何をしてもなくてもゆっくりと過ごしたりできる「ぷれいす」【場所】です。

ここでは、カードゲーム、マンガを読む、おしゃべりする、ボーっとするだけでもよし！勉強するもよし！自分のペースで過ごせます！どんな場所なんだろう？と見学だけでも大歓迎です！ぜひ一度来てみてください！

こんな人におすすめ♪

- ☐ 学校に行きたくない時がある
- ☐ 学校に行きたくても、行けない
- ☐ たまに誰かに話をきいてほしくなる
- ☐ 学校の授業が難しい
- ☐ 自信がない、やる気が出ない
- ☐ 自信がないけど、何かに挑戦したい

何ができる？

- ★バスル ★トランプ
- ★学習の予習復習
- ★ボードゲーム ★お菓子
- ★マンガ ★おしゃべり
- ★ボーっとしたい 等

他にもやりたい事があったら職員さんに相談してね♪

《 対 象 》
中学・高校1～3年生

《 場 所 》
墨田児童会館 1階ロビー、3階図書室など

《 日 時 》
4月16日～ 毎週水曜日
午後6時30分～7時30分の1時間

※長期休暇中は時間が必要になる場合があります。
※年末年始、休館日、祝日はお休みです。

《 お問い合わせ 》
フレンドリープラザ墨田児童会館 03-3614-7141
担当：湯浅・飯野

毎週水曜日開催中！！

いつでもOK！
いつ帰ってもOK！

工夫点・留意点

対応する職員を固定化することにより、継続的な支援を目指す。

同時刻に実施されている他の中高生プログラムへの参加については、相交えないグループとの関係性に留意し、職員が間に入るなどの体制を作り、必要に応じて参加を促していく。

参加者から出てきた、相談事については、丁寧に扱い、内容によっては管理職に報告・学校などの関係機関との情報共有を行う。

地域の不登校支援の団体のプログラムに職員が顔を出したり、学校・教育センターなどに活動のPRを行い、プログラムの周知に努めた。



取組の効果

常連で顔を出してくれている児童はまだ数人で、「ホッと！ぷれいす」前に小学生のプログラムにボランティアとして参加したり、この時間のみの利用だったり、それぞれ過ごし方はまちまちである。

しかし、「ホッと！ぷれいす」から派生して、地域の不登校支援の団体とのつながりから、不登校の児童が午後早い時間（同じ世代に会いたくないという意向があり）に来館し、体育館などで汗を流して過ごすことを数回実施することができた。これらの児童が、夜間の中高生の利用時間に顔を出したり、「ホッと！ぷれいす」に参加するまでには、現時点では至っていないが、家以外で過ごす場として、児童館が選択肢の一つとなりつつある。支援団体を通して保護者との共有や、児童館から学校にも近況を報告するなどの連携をしながら進めている。

課題・今後の展開

今年度の最後の取り組みとしては、不登校児童を対象とした集いのプログラムを実施予定で、保護者同士の交流も視野に入れたプログラムとする予定。他の利用者と顔を合わせることに抵抗がある児童への配慮として、児童館に入る時の非常扉の使用や部屋の貸し切りなどを実施する。